



開かれた農園を目指して

7/20 農業コンクール優秀賞受賞報告

農業の実績と将来性を競う第56回全国農業コンクール全国大会(毎日新聞社・愛知県主催)で優秀賞を受賞した中村隆宣さん(三郷温)が7月20日、受賞の報告に市役所を訪れました。中村さんは、20²⁰のりんご農園を営み、新しく農業に就く人の育成などに積極的に取り組んでいます。「果樹園の環境は、『開かれた農園』を目指すのに最適。これからも色々とチャレンジしたい」と抱負を話しました。



地域の力が犯罪を防ぐ

7/2 社会を明るくする運動等街頭啓発

7月は、社会を明るくする運動、青少年の非行問題に取り組む全国強化月間として、市内で啓発活動が行われました。

7月2日、保護司や教育関係団体による街頭啓発が行われた後、保護司会の代表者が市役所を訪れ、市長に運動への協力を求める法務大臣からのメッセージを手渡しました。地区保護司会会長の遠藤順弘^{よりのひろ}さんは、「犯罪や非行を防ぐには、家庭を中心とした地域の力が必要不可欠。この運動が、そのことを考えていただくきっかけとなれば幸いです」と話していました。

住民や企業、約3千人が参加

7/28 あづみ野祭り

第28回あづみ野祭りが、豊科駅前通り周辺で開かれました。今年は45連、約3,000人が参加し、あづみ野ばやし踊りで盛り上がりました。

各コンテストの結果は、次のとおりです。

◎踊り連コンテスト(一般の部、分館の部)最優秀賞=安曇野赤十字病院、桜坂区、優秀賞=豊科高校、真々部区、ハッスル賞=文福、下飯田区、ユーモア賞=美容師組合、重柳区、アイデア賞=豊科サティ、光区、綺麗で賞=日本舞踊の会民踊会、飯田区、エネルギッシュで賞=三郷中2年4組、吉野区、センスが良いで賞=豊科金融団、下鳥羽区、可愛いで賞=豊科リトルリーグ、本村区、オリジナル賞=安協女性部、新田区

◎仮装コンテスト大賞=下里正幸(光)、入賞=細川翔太郎(殿村)、伊東新平、高橋裕司(美容師組合)、大西信洋(豊科サティ)、赤澤典明(豊科金融団)、浅田圭介(EPSON)、小松忍(飯田)、奥原宏宣(下飯田)、丸山正憲、井口正一(下鳥羽)、須澤光明(豊科高校)、樽沼実雄(徳治郎)



競い合い、高め合う

8/5 信州安曇野わさび祭り(YOSAKOI安曇野・納涼祭)

第8回YOSAKOI安曇野が、穂高駅前通り、穂高神社北神苑で開かれ、過去最高の40チーム1,454人が参加しました。また、今年からYOSAKOI安曇野賞など4つの賞を創設し、それぞれの舞いを競いました。受賞団体は下記のとおりです。また、夕方から行われた「納涼祭」では、穂高地域の分館を中心に約2,300人が参加し、穂高の夏の夜に舞いました。

◎YOSAKOI安曇野賞=信州大学YOSAKOI祭りサークル「和っしょい」(松本市)、◎わさび祭り賞=くびき野飛龍舞(新潟県上越市)、◎商工会青年部賞=音舞乱花-On・Branaka(穂高)、◎審査員特別賞=大町Bissawaレッツゴー舞隊(大町市)、春日泉翔舞(新潟県上越市)、穂高東中学校(穂高)



科学の芽を育てる

7/28 チルドレンズ・ミュージアム・イン・あづみの

身近な不思議を体験できる移動科学館「チルドレン・ミュージアム・イン・あづみの」が7月28日、豊科勤労者総合スポーツ施設体育館で行われました。この日は、親子連れなど約600人が参加し、スライムや紙ひこうき、あやつり人形、モビール作りなどに取り組みました。紙ひこうきづくりに参加した子は「とても楽しかった。今度はもっと難しいものを作りたい」と話していました。参加者は、身近な不思議から科学について楽しく学びました。



全国大会での活躍を誓う

6/9 穂商コンピューター部・珠算部

穂高商業高校コンピューター部と珠算部の生徒7人が6月9日、全国大会出場のため市役所を訪れました。

コンピューター部は、第7回長野県商業高校総合競技大会(情報処理競技)で優勝し、3連覇を達成しました。また、珠算部の矢口紗世さんは個人の部で、全国大会の出場を決めました。両部を代表して尾澤杏奈さんは「長野県の代表として全力を尽くしたい」と意気込みを語りました。平林市長は「全国では、遠慮することなくよい成績を収めてきてほしい」と激励しました。